



NEWS LETTER 第3号 (R3.3.31)

令和3年3月退任教員からのご挨拶

植山 俊宏 教職キャリア高度化センター長

教育創生リージョナルセンター機構には六年間お世話になりました。最初の二年は機構長として、次の二年は機構長と教職キャリア高度化センター長を兼任して、最後の二年は教職キャリア高度化センター長としてです。国語科教育が専門という立場上、教員研修には個人的に深く関わってきましたが、大学の仕事としては初めてのことと多くのおまじががありました。特に教育委員会との連携は、一つ一つが新鮮で、手続きや段階を踏んで進めていくことを学ばせていただきました。その際に感じたものは、児童生徒、教員を大切にする教育関係者の思いの厚みでした。この六年の間に還暦を迎えましたが、多くの方々とお付き合いを重ねたおかげで「六十にして耳順う」実感とともに、振り出しの「十有五にして学を志す」思いもまた新たになりました。センターの先生方、事務の皆様、ご支援くださった教育委員会の方々のお導きのたまものと感謝いたしております。ありがとうございました。

初田 幸隆 教授

教職キャリア高度化センターに参りましてから5年、あっという間に退職を迎えることとなりました。その間、Web講義の制作等に取り組ませていただき、皆様方からは多大なるご協力をいただいたところです。本学が教員養成、採用、研修の一体化をめざす中、地域との連携拠点として、アクティブラーナーである先生方を支援させていただけたことは、私自身にとってかけがえのない経験となり、教育に携わる者としてまたない機会を得たものと喜んでおります。この度、無事に務めを終えることができますのも、ひとえに皆様方のご支援ご協力のお陰であり、この間頂戴したご厚情に対しましては心より御礼を申し上げます。最後に本学の益々の発展、皆様方のご多幸を祈念申し上げ、退職にあたってのご挨拶といたします。

次期センター長、センター新任教員からのご挨拶は次号に掲載予定です。



令和2年度教職キャリア高度化センターの活動について

スポーツ指導者養成事業について

授業科目「スポーツクラブ指導入門」の指導実習やインターンシップ活動の受入先であるKYOKYOクラブが、新型コロナウイルスの影響で同クラブの活動を4月から休止したため、急速、「スポーツクラブ指導入門」の開講期を前期から後期に変更し、インターンシップ活動も休止となりました。「スポーツクラブ指導入門」（後期開講）は、後期においても新型コロナウイルスの状況が改善しない場合に備えた指導実習の改訂版を採用した授業を開講し、37名が受講しました。なお、令和2年度の京都教育大学「スポーツ指導者資格」取得者数は33名（基礎21名、上級12名）でした。

また、一年間休止したインターンシップ活動については、KYOKYOクラブが令和3年4月からも活動再開が見込めない状況であることから、コロナ禍の長期化を想定して検討していた代替プログラムにより、令和3年度のインターンシップ活動を実施する予定です。

学校ボランティア支援事業について

コロナ禍によるボランティア活動先の休業、学校行事の日程変更や中止が相次ぎ、また、新型コロナウイルス対策に追われる教員の負担が増加していたこともあり、学生のボランティアへの期待は大きくなっていました。しかし一方で、大学の授業や教育実習の日程変更など、学生を取り巻く環境の変化も大きく、学生がボランティア活動を活発に行うことが困難な一年となりました。

このため令和2年度に学校ボランティア活動を行った学生の実人数は、令和元年度の194名から129名へと大幅に減少（33%強減少）しています。

令和2年度制作の「先生を”究める”Web講義」について

本センターの令和2年度の「先生を”究める”Web講義」制作動画は、次のとおりです。講師の皆様には、撮影、制作等にご協力いただきありがとうございます。GIGAスクール構想や、コロナ禍による急激なデジタル変革のもと、教師にとってオンラインを含めた多様な学びはさらに重要となるかと思われます。今後とも「先生を”究める”Web講義」制作に、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

また、令和2年度からは、本センターのミニスタジオ等を活用するとともに、学生に撮影、編集を依頼するかたちで動画を制作しています。間もなく新しい動画を公開する予定ですので、ぜひご覧ください。

<令和2年度制作動画タイトル及び講師>

体育の授業で活用できる運動教材の実際（小松崎 敏）
 小中の9年間をつなぐ（初田 幸隆）（2本）
 カリキュラム・マネジメントについて考えるために（徳永 俊太）
 道徳科のキソ・キホン（神代 健彦）
 メンターシップ育成プログラム（村上 忠幸）



↑ ミニスタジオでの撮影の様子

学校経営講座・特別支援教育講座について

【学校経営講座】

本センターでは下記一覧表に記載のとおり、令和2年度に本学主催の学校経営講座を3回（11月17日、11月21日、12月25日）開催しました。いずれも笠沙知章教授（本学連合教職実践研究科）に講師を務めていただき、「カリキュラムマネジメントと学校財務」や「学校経営と教育法規」について講義の上、活発なグループセッションを行いました。

受講者は計97名で、内訳は京都府立学校教員等64名、京都市立学校教員等25名、その他8名でした。アンケート結果では「法規は理解しておく必要があるが、意識していないと学びにくい。こういった研修はとても参考になる。」「リーガルマインドの重要性について考える良い機会となった。」「ぜひ、毎年やっていただき、自校から必ず1名は参加させたい」などの記載があり、好評を博しました。

本学F16での講義の様子→



【特別支援教育講座】

令和2年10月19日京都テルサにて特別支援教育・京都教育大学サテライト「コーディネータースキルアップ」講座が行われ、本学から佐藤克敏教授と牛山道雄准教授にご講演いただきました。佐藤教授からは、一人一人の生徒に対して必要な学習内容を考え、個別にカリキュラムを立てて学習を進めていく重要性について、牛山准教授からは、目に見える身体活動のみならず、眼球運動にも不器用さがあり、視線がスムーズに動かせないことが日常生活の妨げになっているのではないかという可能性についてお話しいただきました。

本講座には60名の京都府立学校教員が参加し、熱心に耳を傾けてメモをとる姿や、講演内で示された研究結果に対して驚きの声をあげている様子が見られました。

京都テルサでの講義の様子→



↓ 令和2年度に実施した講座一覧

講師	実施時期	研修講座名
笠沙 知章 置田 文夫	6月 1日	京都府教委「学校経営講座」（第1回）Web
相澤 雅文	6月27日	京都府教委「特別支援教育スキルアッププログラム」（第1回）Web
相澤 雅文	9月 9日	京都府教委 連携出前講座 京都府立城陽支援学校（1回目）
笠沙 知章	9月17日	京都府教委「学校経営講座」（第4回）
佐藤 克敏 牛山 道雄	10月19日	京都府教委「コーディネータースキルアップ」講座
谷口 和成	11月10日	京都府教委 小中をつなぐ理科の見方・考え方講座（Web+）
笠沙 知章	11月17日	本学主催「学校経営講座」（京都府北部）
笠沙 知章	11月21日	本学主催「学校経営講座」（第1回）
相澤 雅文	12月21日	京都府教委 連携出前講座 京都府立城陽支援学校（2回目）
笠沙 知章	12月25日	本学主催「学校経営講座」（第2回）

開催されたイベントについての報告

「学び続ける教員へのメッセージ」講演会

教職キャリア高度化センターでは、「学び続ける教員へのメッセージ」として、講演会を令和3年2月27日(土)にオンラインライブ配信にて実施しました。講師には東京大学・慶應義塾大学の鈴木寛教授をお招きし、「これからの教師に求められる資質・能力とは」というテーマでお話をいただき、講演終了後には鈴木教授と本学初田幸隆教授との対談を行いました。

講演では、これからの教師に求められる資質・能力について、世界的な潮流や現行学習指導要領改訂の趣旨等を踏まえながらお話いただきました。視聴者の約半数が教員志望の学生であり、鈴木教授の「教師は尊い仕事である。」との力強い発言は学生を勇気づけ印象に残ったものと思います。また、対談は、現場経験豊富な初田教授からの現場の状況に根差した問いかけに鈴木教授がお応えいただくかたちで進行しました。

管理職を含め現場の先生方からは今後の学校経営や人材育成に生かされると大変好評でしたが、一方学生には現場経験がないだけに保護者や地域の方々との連携等に伴う難しさなど具体的に受け止めるのが難しかったようです。なお、お二人には、対談中にチャットに入った視聴者からの質問にもお答えいただき、オンラインながらライブ感のある対談となりました。

視聴者は192名でした。多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。



↑ YoutubeLiveでの配信の様子

(メンタープロジェクト) コルトハーヘン氏を講師に招いたオンライン研修

令和3年2月9日(火)17時~20時に、元ユトレヒト大学教授で長年にわたって省察について研究をされ、教師教育においても第一線で活躍されているコルトハーヘン氏から直接、オンライン研修を受けました(通訳:仲本かな氏)。参加者は本学教員19人でした。

今日、日本においても主に学生や初任者が、実践しながら学びを確かにする省察(振り返り、リフレクションと呼ばれることもある)が注目されるようになってきました。本研修ではコルトハーヘン先生のALACTモデル、コアフレクションという理論に基づく省察の方法についてワークショップ形式で体験的に学び、理解を深めることができました。参加者からは、この研修を活かして学生や教員の指導に活かしたいという声が聞かれました。



↑ オンライン研修の様子

来年度もセンター主催のイベントを複数開催予定ですので、ふるってご参加ください。



教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要について

教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要第3号が令和3年1月31日に発行となりました。今年度も多くの方にご投稿いただき、29本もの論文が編纂されました。本紀要は大学教員のみならず、附属学校教員にも多く投稿いただいております。教育実践に関する幅広い内容が掲載されております。本学附属図書館や教職キャリア高度化センターのホームページ等で内容を読むことができますので、是非一度ご覧になってください。

また、以前からお知らせしておりますとおり、次年度第4号からはスケジュールを変更して発行いたしますので、教職キャリア高度化センターのホームページをご確認の上ご投稿いただきますようよろしくお願いいたします。

京都府北部創生支援事業便り

京都府北部創生支援事業は、本学と京都府教育委員会との協定に基づき、「北部地域創生に資する人材育成」に資するものとして展開しています。平成30年度に開始し、令和元年度から本格実施となりました。事業の実施にあたっては、多くの先生方にお力添えいただいています。今回は、実際に本事業にて北部での研修をおこなっていただいた先生に、感想を伺いました。

令和元～2年度に、心理学の視点から「学びに向かう力」「非認知的能力」の発達と学校における教育的支援の問題をテーマとして計5回の研修を行いました。これらの能力の育成には地域を踏まえた児童生徒の理解と教育が必要であると考えられ、ご出席の先生方とのディスカッションは私にとっても大きな学びの機会となりました。

【教育学科 田爪宏二 准教授】

「地方創生は教育から」

“We went to KOTOHIKI Beach. We enjoyed swimming. It was exciting!”

島津小学校6年生16名の元気な声が教室中に響き渡った。小規模校ならではの全教員が取り組む外国語教育に感銘を受けた。あの子どもたちが碧い海の遥か彼方に異言語・異国が無限に広がっていることに想いを馳せることこそが外国語学習のコナトウス（力）となるのだ。

【英文学科 西本有逸 教授】

また事業の活動では令和3年2月16日に「中丹マイスクールデザイン校」白糸中学校区研修会として、田爪宏二准教授に講師を務めていただきオンライン研修会が開催されました。京都府への緊急事態宣言が発令されたため、本学未来教室からの配信となり、舞鶴市立白糸中学校、新舞鶴小学校、志楽小学校の先生方が参加し、非認知的能力と認知的能力を育む「学びに向かう力」の育成についての講義を行いました。



↑ オンライン研修の様子

令和2年度もセンターの活動に幅広くご協力いただき、ありがとうございました。来年度もご支援とご協力の程、よろしくお願いいたします。



所属教員

センター長	植山 俊宏
センター次長	市田 克利
	高柳 真人
専任教員	富永 吉喜
	中垣 ますみ
	初田 幸隆
	樋口 とみ子
	梶山 直美
	福岡 拓
兼任教員	相澤 雅文
	村上 忠幸
	小山 宏之

連絡先

ボランティアオフィス
(月～水・金 10:30～13:30、木 10:30～14:30)
スポーツ指導者養成オフィス
(月～金 10:00～13:00、14:00～15:00)
事務担当
(研究協力・附属学校支援課
研究協力・センター機構支援グループ)

